

学園だより

No56
令和4年1月

発行
広島県立広島学園
東広島市八本松町原 10844
電話 (082) 429-0351

中国女子児童バレーボール大会 三連覇を達成する!!

十月十五日(金)に山口県の維新百年記念公園・大晃アリーナで大会が開催されました。鳥取県、岡山県、広島県の三チームが正式チームとしてエントリーしました。第一試合は鳥取県立喜多原学園でした。試合前、選手は緊張した様子でした。そこで、監督が、いつも通り、今までやってきたことに自信を持ってやるように声をかけました。出だしはサーブミスや相手のレシーブの乱れが続く、連続得点となりました。しかし中盤になり、サーブレシーブのミスやつないで返しきれないミスが続く、点数差が縮まり逆転される場面がありました。最終盤はサーブミスで逆転し、一セット目を二十五対二十三でなんとか勝ちました。二セット目は、チームの課題であるサーブレシーブの乱れが続いたり、流れに乗りたところでのサーブミスもあり、波に乗り切れずに十七対二十五で

二セット目をとられてしまいました。三セット目の序盤、練習してきたAクイックが決まって、チームの雰囲気盛り上がりました。サーブミスも続き、十五対一でセットをとり、セツトカウント二対一で勝利しました。第二試合は、岡山県立成徳学校でした。一試合目同様、サーブミスで試合が始まり、いい出だしかと思われたのですが、相手にサーブ権がうつると連続の失点が続きました。中盤、追いつく場面もあったのですが、再びミスが続いて先に二十点を相手にとられ、一セット目をとるのは厳しいという流れでした。そんな状況でサーブミスが取れる選手にサーブがまわり、連続得点が続き二十二対二十二まで追いつくことができたのでチームは息を吹き返しました。相手もタイムをとったりして流れを切ろうとしましたが、その後もサーブでコースを狙い、安定してサーブを入れ続け二十五対二十二で逆転して一セット目を取ることでできました。二セット目は、二人の選

手のサーブミスエースが続き、二十五対十でセットをとり、セツトカウント二対〇で勝利し、広島学園の優勝が決まりました。監督は「リードしている状況から、巻き返されたり、リードされて選手の気持ちが悪化していた場面もありましたが、選手自身がその都度気持ちを切り替えながら試合にのぞんだので優勝することが出来ました。」と、試合後に選手を称えていました。



学園行事

◆第一回進路講演会

「私が働く理由」



ダイキョーニシカワ株式会社
経営管理本部 人事部
人事企画グループ 千谷様

*私が働く理由は…

『仕事を楽しみから!』

『仕事に楽しみ(喜び)…人と関

わり成長すること!」を見つけ
たから!」
*働く理由は、人それぞれにある。
どんな理由であっても
『その人の働く理由が、仕事を頑
張るエネルギーになる!』

中三 女子

講演会で印象に残ったことが三つあります。一つ目は、車が完成するまでの間で、部品から作っていくということです。私は今まで自動車の部品は外国から輸入されて完成していくと思っていたので驚きました。二つ目は、職業についてです。一つの会社の中に様々な仕事があり、業務内容が違うということです。沢山の人が仕事にやりがいを持って、自分の仕事をこなすことで一つの会社を支えていることが凄いなと思いました。三つ目は、働く理由についてです。私はまだ将来何の仕事がしたいかが決まっておらず、収入が高い仕事に就きたいとしか考えていませんでした。ですが自分の仕事にやりがいを感じ「仕事を楽しみ」と聞いてからは、私もやりがいのある仕事をしてみたいと憧れました。そのため、これから自分がやりがいを感じ

ることを探していこうと思います。



スマホ安全使用教室

東広島警察署の少年育成官の方からスマホの安全な使用の仕方について学びました。

中二 女子

私は、ここに来る前に「あとがこわい」を全部していたり、スマホを注意されても、親の機嫌が悪くなるまで長時間していてスマホ中毒の状態でした。だから、退園したらもう二度としないように、「親に秘密を作らない」と言うことを意識していこうと思います。ここに入った理由もスマホでのトラブルだったりと、正しい使い方をすれば便利だけど、誤った使い方をし続けるといつか犯罪に巻き込まれたり、人間関係が悪くなったりすると改めて分かったので、今日学んだことを今後の人生に活かし、同じような失敗を繰り返さないようにしていこうと思います。

また、スマホの正しい使い方を知るために何をしたら危険に巻き込まれたり、後悔したりすることが無くなるかについて、もっと積極的に勉強して、スマホを使う時には「あとがこわい」を意識します。

竹細工づくり



そうめん流しは、コロナウィルスのため今年もできませんでしたが、孟宗竹を使って箸と器作りをしました。昼食をそうめんにしてもらい、自分で作った箸と器で食べました。



中二 男子

今日は、竹細工をしてとても楽しかったです。その中でも、お箸を竹で作った時が一番楽しかったです。

僕は初めて、竹でお箸や器を作りました。お箸を作る時は「丁寧に作れるかな」と思って、ちよつとどきどきしていました。お箸づくりの時に小刀を使っただけで、気を付けてできたので怪我をすることはありませんでした。他の子のお箸を見て「すごい」と思ったので、僕も負けずに頑張ろうと思いました。けれども

なかなか上手にできませんでした。

でもくじけずに一生懸命に作りました。器作りでは、竹を適当な長さのこぎりで切って作りました。お箸と器の表面がさくれていたの、口などが切れてはいけないと思い、やすりを使って表面を削りました。やすりは、面がざらざらしている六十号ぐらいから四百号へと、ざらざらしていないものに変えながらお箸や器をすべすべにしました。お昼は自分が作ったお箸と器で、そうめんを食べました。そうめんがとっても美味しかったです。

ふれあい運動会

中二 男子

僕は、去年は運動会に参加できませんでした。その時は悔しい思いをして、「来年は、絶対に参加する」と、先生方やお母さんと約束しました。運動会の練習が始まる前に「実行委員になります」と、先生から伝えられ、「運動会に参加したい」という思いが強くなりました。運動会に参加できるチャンスをもらい、実行委員にもなったので、責任感を持って運動会の練習に臨みました。放課後は、毎日実行委員会があり、全体練習での意見を出し合いま

した。実行委員会で話し合ったことや次回の全体練習のことなどを夕会後に寮生に伝えました。僕は、運動会の実行委員をした経験がなく、わからないことが沢山ありました。先生やもう一人の実行委員に聞いたりして、運動会を作り上げていきました。全体練習の一日目に些細なことに腹を立てしまい、練習に参加できませんでした。その後の練習からは、毎日必ず練習に参加し、本番に向けて頑張りました。寮生活の中で、落ち着かない時やイライラする時も沢山ありましたが、その時には先生方に教えてもらったことを意識して、踏ん張って、壁を乗り越えました。寮生をまとめようと思っても、なかなかまとまらなかったり、ギスギスして寮の雰囲気が悪くなったりもしました。そんな中でも、応援合戦の発表をつくりあげていきました。練習では、声を出す人と出さない人、イライラする人もいましたが、皆が協力してくれたので本番を迎えることができました。僕は、大縄がちゃんと跳べるか、応援合戦で優勝できるのかと、不安になったりしましたが、皆の協力もあり、段々と前向きになることができました。運動会当日の朝は、すごく緊張していました。出陣式では、実行委員の一人一人が意気込みを言いました。入場

行進が始まると、手を伸ばすこと、足を腰の高さまで上げることに集中しました。競技の部の玉入れでは、三回戦とも紅組の勝ちでした。応援合戦を披露するときには、全力で、笑顔で取り組みました。ダンスをしている時に緊張が飛んでいきました。応援合戦での優勝はできませんでしたが、全力でやってくれた寮生、応援してくださった方々に、本当に感謝しています。閉会式後には、お母さんと少しの時間でしたが話をしました。お母さんには、昨年見てもらえなかったもので、一生懸命な姿や成長した姿を見てもらえたと思います。

次は文化活動発表会があるので、必ず参加して、今回の成長した姿より、もっと成長した姿を見てもらいたいと思っています。



第二回進路講演会

「社会人になるということ」

新中央工業株式会社

畠中 様

* 入社して感じたこと

・ 素直な心が必要

・ 積極性→成長となる

・ 毎日が新しい

* 仕事⇨人生を豊かにするもの

* 進路実現に大切なこと

・ 色んな事に興味を持ち挑戦する

・ 新しい学びや得るものが皆さんの成長となる

・ 努力が無駄になることは絶対にない

中一 男子

講演会で学んだことが、二つありました。僕の知人に、キャビンアテンダントの仕事をしていた人がいます。その姿がかっこよくて、思い出に残っています。僕が話を聞いて学んだ一つ目は、「世の中には色々な仕事がある」ということです。高速道路の壁が、防音のためだとは知りませんでした。しかも、壁の固定金具の九十パーセント以上が、広島で作られていると聞いて驚きました。僕の目に見えているものは、狭いのだと思いました。二つ目は、仕事をやる中で、「思いやりの気持ちを持つ」ことが、大切なことを知りました。僕は、人の気持ちを考えた行動ができておらず、人をイラッとさせ

てしまいます。講演でのアドバイスを、教えていただいたことを活かしていきます。講演の内容は、非常にわかりやすく、丁寧に教えていただき、ありがとうございました。



中国女子児童バレーボール大会

中二 女子

私は、バレーボール部の活動をとおりて、成長したところが二つあります。一つ目は、『耐えること』です。私は、練習中にミスをして、イライラを出してしまうことがありましたが、「次、取りまそう」などと、声をしっかりと出して、気持ちを直せるようになりました。

二つ目は、『正しい判断』ができるようになったことです。私は、八月ぐらいから、セッターのポジションをしました。ミニゲームなどでは、サーブのレシーブのときに、私ができるだけボールをとらないといけないと思っていました。しかしセッターは、サーブをレシーブした二回目のボールをトスする役割のため、どうしたら良いのか

が分からない状況が続きました。そこで、サーブのレシーブは、他のメンバーに任せることに決め、サーブが自分に向かってくるときにだけ、サーブのレシーブをすることにしました。そして、二回目のボールに集中しました。そう決めたことで、「このボールは、私だ。」「このボールは、任せよう。」と、『正しい判断』ができるようになりました。

バレーボールで成長したことは、生活場面でも活かせると思っています。『忍耐力』は、注意や指導を受けた時に、イライラせずに自分の良くなかったことを素直に認めて、「すみませんでした」と、謝ることに活かせると思います。『正しい判断』では、「今、すべきことは何か」を間違わずに判断することができています。だから、バレーボール部の活動で体得できたことは、しっかりと生活でもできると思えます。また、たくさんの人に支えてもらっていることにも、大会をとおりて、改めて気付くことができました。大会で優勝できたのは、寮生一人一人の努力もありますが、たくさんの方が丁寧にバレーボールを教えて下さったり、併設学校の先生は、土日も教えに来て下さったりしたからです。練習は、正直しんどかったけど、しんどい練習を

してきたから、大会でその成果を出す
ことができたと思います。バレー部の
活動は終わってしまいましたが、今まで
の頑張りを見事にしたり、生活が崩れ
たりすることなく、その頑張りをも
っとレベルアップさせる」という思い
で、これからの陸上部の活動もやり切
ります。長距離走は、精神的強さが大
切ですが、バレーボールで体力と精神
面をすごく鍛えてもらいました。それ
を長距離走でも、発揮させます。私は、
バレーボールを始めた時、ボールを受
けるのが痛くて苦手でしたが、今はと
ても得意なスポーツになりました。「苦
手なことも続ければ得意になる」とい
うことを改めて知りました。貴重な体
験をさせてもらって感謝しています。



文化活動発表会（児童作文）

「未来の成長に向かって」

中二 男子

僕の家では家族の関係が悪く、僕は
「家族と一緒に暮らしたくない」と思
っていました。お互いに傷つけ合い、

僕も家族に嫌な思いをさせてしまいま
した。入所前の学校や家での生活では、
人をいじめていました。人にやさしく
されたことがなく、人のやさしさを知
らず、当たり前のように人を叩いたり、
暴言を吐いたりしていました。僕が人
をいじめたせいで逆にいじめられたり、
周りが離れたりしていきました。僕は
「これが当たり前だ」と、思っていま
した。授業も参加せず、悪い友達と遊
んでいました。弱い立場になるのが、
怖かったからです。四年生のある日、
女子から優しくされ、人との関わりを
正しくしようとしたこともありまし
た。そんな僕は、絶対にやってはいけない
ことをして、地域・家族・学校にたく
さん迷惑をかけてしまいました。警察
には、初め嘘を言ってごまかそうとし
ていましたが、次の日に本当のことを
打ち明けました。警察に本当のことを
話したことが母に伝わると、母は泣い
ていました。泣いている母を見て、そ
れまで感じたことのなかった母への罪
悪感と、事件を起こしたことへの強い
後悔が出てきました。事件の後、一
時保護所に行くことになりました。一
時保護所に入る時、母は泣きながら
「頑張つてね。」と、僕を送ってくれ
ました。その時に再び事件に対しての

罪悪感と、母から離れることへの辛さ
を強く感じましたが、これからどうい
う人になりたいかは、ほとんど考えて
いませんでした。それから一ヶ月がた
ち、広島学園に入るようになりました。
広島学園に連れて行かれる前に、僕
は逃げようと思いましたが、失敗しま
した。特別寮に入ると、ケースワカ
ーの先生から、寂しそうに「頑張つて
ね。」と言われ、母と離れる時と同じ
くらい辛かったです。

入園時の個別支援の時は、目上の人
にきちんとした関わりができるか心配
でした。入所する前には敬語を使つて
いなかったのですが、毎日、敬語を使うこ
とも苦労しました。周りの人はでき
ているのに、自分ではできないことに対
して、孤独な寂しい気持ちにもなりま
した。その中で、自分の気持ちをしつ
かりと伝えて、分かってもらえるよう
に、人との関わりを頑張ろうと思つて
いました。しかし、なかなか上手くい
かず「このままできなかつたらどうし
よう」という不安がずっとありました。
時には、投げやりになることもありま
した。自分のイライラも先生に伝わら
ず、さらにイライラしました。

僕は、先生に注意されると嘘をつい
たりごまかしたりすることがありまし
た。先生たちから、信用されなくなる

こともありました。先生に話しに行か
ないといけないのに、行かないことも
たびたびありました。その度に、先生
にイライラして反抗することがたくさ
んありました。生活に慣れてなまける
こともありました。一ヶ月ごとに担当
の先生と振り返りをする時、自分の課
題だけではなく、成長したことにも気
付けました。入園時の個別の支援時に
不安だった「自分の気持ちを伝える」
ということが、報告活動でしつかり伝
えられるようになりました。「イライ
ラする。自分のイライラを分かっても
らいたい。」という気持ちで報告活動
に行った時、担当の先生から「自分の
気持ちを伝えられるようになったね。
一歩成長したじゃん。」と褒められて、
とても嬉しかったです。入園時の不安
を減らすことができて、とてもすつき
りしました。多分、周りは「良かった
ね。」と言ってくれたのではないかと
思います。逆に失敗したことは、ノー
トに落書きをして、寮の先生への暴言
を書いたことです。やっている時はす
つきりしたけれど、後から罪悪感が押
しよせてきました。机について反省し
ましたが、皆に合流した時に、周りか
ら避けられるようになりました。すご
く後悔したし、情けなかつたです。そ
の失敗から学んだので、「今回、間違

った気持ちの伝え方をしてしまった。だから正しい伝え方を知ろう」という気持ちになりました。

その後は、原籍校で友達に優しくしてもらったことを思い出し、相手への言い方を意識することから始めました。「優しくになりたい。」とも強く思いました。実際にトラブルになりそうになったときには、僕が一步引けたこともありました。退園するまでには、人やさしく、人に助けてもらえような存在になりたいです。自分のことをきちんと伝えて、知ってもらえるようにしたいし、自分のことは自分でやれるようにして、余裕と思いやりの気持ちを持って、生活出来るようになりたいです。僕ができるようになったことは、人の考えていることや気持ちが考えられるようになり、言葉を選んで関われるようになったことです。人の気持ちを考えてトラブルをさけた時に、担当の先生から「ちゃんとやれたね。」と褒められて、とても嬉しかったです。退園後に家庭でがんばりたいことは、「自分の気持ちを伝える」ということです。入所前のように、自分一人で気持ちを溜め込んで、他の人に迷惑をかけたくないからです。やることもためないようになりたいし、大人の指示を一回で聞けるようにな

りたいです。学校では、授業態度を良くすることです。入所前のように成績が悪くて、「高校に行けない」ということをなくしておきたいからです。皆とも仲良くしたいです。僕は、学園に来る前まで、「優しさを持つことは変だ」と、思っていました。僕にとって、「人をいじめるのは当たり前のこと、人からいじめを受けるは当たり前のことだ。」と思っていた。しかし、「優しさを持つことは大切なことで、人をいじめることはおかしいこと。いじめに合うことも同じ。嫌なことは『嫌!』と言うことも大切だ。」と分かりました。納得がでなくても「まあ、いっか!」という気持ちも大切になります。



*地域交流



中国地区児童駅伝・マラソン大会
中国地区駅伝大会は、島根県で開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、各県の記録を集約して表彰することになりました。そのため、東広島運動公園陸上競技場で、大会要項に従って記録を測定しました。

大会結果

・駅伝の部

優勝



区間賞 一区、三区、四区

・マラソンの部

中学生以上 男子

優勝、四位、五位、六位、七位

十一位、十三位

中学生以上 女子

準優勝、四位、五位、六位

小学生

四位、五位、八位

中国地区児童駅伝・マラソン大会
と園内・校内駅伝大会に参加して

中二 男子

今回の駅伝・マラソン部には、始めからずっと参加することができました。中国地区の駅伝大会では二区に選ばれ、園内の駅伝ではアンカーに選ばれました。怪我をすることなく、練習も大会も参加できました。

中国駅伝大会は、二区を走ることに
なり、とても緊張していました。でも、スタートすると緊張がなくなりました。この大会で走るのは二kmで四百mトラックを五周しました。初めの三周が、なぜか少しゆっくりになりました。一周を走るのに一分半もかかり、「一km地点で、四分ぐらいかかっている」と言われて、そこからペースを上げました。残りの一周は全力疾走で走りましたが、出来なかったのでも悔しかったです。七分三十三秒のタイムで二kmを走り終えました。走り終わってから、「初めから速く走っていればよかった。」「もっとスパートをかけていれば。そうすればもっと速いタイムを出せたのに。」と、後悔しました。二区では、一位と二秒差の二位だったので、より悔しさが大きくなりました。区間賞を取れなかった

のは悔しいですが、昨年から目標だった「駅伝部 優勝」ができたのでとても嬉しかったです。以前には七連覇したことがあると聞いて、次回も優勝して欲しいと思いました。

園内・校内駅伝大会は、昨年は疲労骨折で参加できなかったもので、まずは参加すること、そして優勝することが目標でした。ゆったり日課が始まって、休める時間が長くなったおかげだと思います。僕の大会前のベストタイムは、十一分五十五秒でした。僕のスタートは四位からだったので、少しでも追いつくためになり早めのペースで走りました。中国駅伝大会での反省を活かしたことでありました。二周目も三周目も殆ど同じペースで走れると思っていました。各週の折り返し地点でも、踏ん張ってペースを落とさず走れていると思っていました。しかし、前には追い付けず、ベストタイムとはなりませんでした。それどころか、三kmを初めて計ったタイムよりも遅かったです。でもこの大会は、「最初から最後まで全力で走った」と、思っています。先生からも「良かった」と言われているので、どこに課題があったのが、全く分かりません。これまでの練習を一生懸命取り

組んできたから、その中の誤差だったのではないかと、先生と話をしました。でも僕には、納得できない部分がありました。部活はまだあるもので、もつと速く走れるように、全力で始めから終わりまで走り、最後のスパートで全ての力を振り絞り、後悔がなくなるようにします。



高齢者疑似体験学習

中一 男子

高齢者疑似体験装具をつけて歩くのは、とてもしんどかったです。背中がずつと伸ばせず痛かったです。どうしてもスピードが、ゆっくりになってしまいました。その時に、周

りの人が背中をさすってくれたり、腕を持ってくれたりしたので楽になりました。安心しました。高齢者の人も、同じはずです。もし大変そうにしている高齢者の方がいたら、勇気をもって「お手伝いしましょうか？」と声をかけてみようと思います。僕にとって、とても貴重な体験でした。



性教育講座

中三 男子

今回の性教育講座では、新しく知ったこともあるし、実際に体験したこともありました。僕は今まで生きてきて、親に反抗してしまうことが何度もありました。「産まれてきたくなかった」と思ってしまうこともありましたが、でも、今回の講座を聞

いて、僕が産まれる前からとても母は大変だったし、産まれてからも、母は苦労してきたことに気づきました。だから、講座で聞いた話をこれからの生活で活かそうと思います。例えば母が大変そうにしていたら、家事などを手伝ったりできるようにしたいです。ちよつとした気づきが、できるようにもしたいです。



*支援団体の皆様
心温まるご支援をいただき、ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

《ホームページ》

広島県のホームページの中に、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載していますので、ぜひ、ご覧下さい。
(<https://www.pref.hiroshima.jp/jp/sisi/hirosimagakuen/>)